

## 特集

# 「子どもの貧困」と 物語の可能性

給食がない夏休みのあいだに、体重が減る子。  
保険料が払えない親を気遣って、ケガの手当てを保健室  
ですませようとする子。

「子どもの貧困が」がクローズアップされたのは、2008年。

『子どもの貧困』（明石書店）などの出版をきっかけに福祉  
関係者や研究者のネットワークがつくられ、今あたらしい  
動きがはじまっている。

知らない間にじわじわ広がっていた事態に目を向けるこ  
とで、あらためて児童文学における子ども観や家族観を  
ふりかえり、社会にむけた想像力のありかたを問いなお  
したい。